

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 3 月 21 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (3/21 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.5 m ³ /h	23.7	106.6 kPa abs	A系:0.00 vol% B系:0.00 vol%
		給水系：約 4.7 m ³ /h			
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 6.0 m ³ /h	44.2	16.71 kPa g	A系:0.17 vol% B系:0.18 vol%
		給水系：約 2.9 m ³ /h			
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.9 m ³ /h	53.7	0.30 kPa g	A系:0.19 vol% B系:0.20 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・3/16 20:52 原子炉格納容器内雰囲気温度について、一部の温度計で指示値の上昇傾向が見られることから、原子炉格納容器への窒素封入量を約 18m³/hから約 23m³/hへ変更。

【2号機】・3/19 10:33 原子炉格納容器内部の調査準備として、原子炉格納容器への窒素封入量を約 10 m³/hから5m³/hに変更(原子炉压力容器への窒素封入量は変化なし)。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (3/21 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中*1	20.0
2号機	循環冷却システム	運転中	14.3
3号機	循環冷却システム	運転中	19.7
4号機	循環冷却システム	停止中	30 *2

*1:3/19 13:32 システム二次系エアフィンクーラー起動

*2:使用済燃料プール冷却系停止によるデータ欠損に伴い、至近のデータ(3/21 5:00 現在)を記載

【2号機】・1/19 11:50～ 使用済燃料プールの塩分濃度を低減させるため、塩分除去装置の運転を開始。

【3号機】・3/18 9:38～3/20 13:01 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、一次冷却系の弁分解点検を実施するため、使用済燃料プールの冷却を一時停止。(停止時使用済燃料プール水温度:約 15.0℃、再開時使用済燃料プール水温度:約 21.2℃)。

【4号機】・3/20 9:58～13:44 使用済燃料プール内部調査を実施するため、使用済燃料プールの冷却を停止(停止時使用済燃料プール水温度:約 32℃、再開時使用済燃料プール水温度:約 31℃)

3/21 9:46～12:01 使用済燃料プール内部調査を実施するため、使用済燃料プールの冷却を停止(停止時使用済燃料プール水温度:約 28℃、再開時使用済燃料プール水温度:約 28℃)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	2号機タービン建屋	3/20 9:37～ 3/21 9:48 移送実施
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	3/18 10:13～ 3/20 9:48 移送実施
	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/20 10:14～ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/19 8:41～ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (3/21 7:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	除染装置	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)
運転状況	運転中	運転中*	停止中	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5、6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/3/6～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。

・H24/3/14～ 港湾内の海底土拡散防止を目的として、固化土(被覆材)による海底土被覆工事の本格施工に着手。

・H24/3/19 南側開閉所の運転開始に伴い、所内電源系の受電切り替えを実施するため、5:12 に3号機の原子炉監視計器(原子炉圧力容器各部温度)*および4号機使用済燃料プールの冷却、5:33 に共用プールの冷却を停止。その後、受電切り替え完了に伴い、18:30 に共用プールの冷却を再開(停止時共用プール水温度:約 21℃、再開時共用プール水温度:約 23℃)。19:41、3号機の原子炉監視計器(原子炉圧力容器各部温度)を通常状態に復帰。19:56、4号機使用済燃料プールの冷却を再開(停止時使用済燃料プール水温度:約 28℃、再開時使用済燃料プール水温度:約 32℃)。

*:電源設備停止期間中は保安規定第 138 条および第 143 条に定める運転上の制限*2 を満足しない状態となることから、第 136 条(保全作業を実施するため計画的に運転上の制限外へ移行)を適用して作業を行う。なお、電源設備停止期間中も温度監視を可能にするため、仮設発電機により電源供給を行う(3/19 5:56、仮設発電機により電源供給を開始)。3/19 19:41、電源の復旧に伴い、通常の電源供給による温度監視が可能となったことから、計画的な運転上の制限外への移行を解除。

・H24/3/21 11:20 頃 5・6号機No.3軽油タンク周り(屋外)において協力企業作業員が泡消火設備の配管溶接作業を行っていたところ、風により不燃シートがあおられて、周辺の芝生に火の粉が飛び、約3m×3mの範囲にて芝生が燃えていることを協力企業作業員が確認した。11:25 頃、協力企業作業員が水をかけて消火を行い、火は消えた。12:13、浪江消防署へ連絡し、浪江消防署により 13:13 に鎮火していることが確認され、本事象は火災と判断された。なお、本事象によりけが人は発生しておらず、周辺環境のモニタリング値の変動や原子炉・使用済燃料プール等の冷却機能に影響はない。

以上